

第6回 河川整備計画懇談会 河床低下対策検討部会

- **開催日時**：令和7年1月20日(月) 13:30～
- **開催場所**：安中市松井田支所 2階大会議室 及び 現地
- **出席委員**：佐藤成史、清水義彦、高山佳一、堀尾明宏 (出席4名) 敬称略
- **事務局**：河川課 …小川課長、富澤補佐、小暮補佐、岡部係長、武藤主幹
安中土木…川端所長、岸次長、山田係長、布施主任、石井技師、小松技師
安中市 …中里見課長、大河原課長補佐、矢島課長補佐
- **議題**：「碓氷川河床低下対策の検討経緯」について
「新堀地区における河床低下対策」について
「碓氷川土砂還元対策」について
- **配付資料**：
 - ・次第
 - ・出席者名簿
 - ・資料1：委員名簿
 - ・資料2：碓氷川河床低下対策の検討経緯
 - ・資料3：新堀地区における河床低下対策
 - ・資料4：碓氷川土砂還元対策
 - ・資料5：今後の予定(案)

■ 議事録：

1 開会

2 あいさつ(事務局(安中土木事務所長))

3 議題

「碓氷川河床低下対策の検討経緯」について
事務局より資料2の内容について説明。

「新堀地区における河床低下対策」について
事務局より資料3の内容について説明。

以下、審議内容

➤ 高山委員

新堀地区で設計されている床止工について、優先対策箇所 碓氷大橋付近の床止工に設置している魚道と同じ構造か。

➤ 事務局

優先対策箇所 の魚道では側面に隔壁を設けていた。魚道側面を隔壁ではなく斜路とすることで、側面からも魚が遡上できるよう工夫している。

➤ 清水委員

優先対策箇所の魚道よりも機能は高まっているのか。

➤ 事務局

魚道構造は、これまでの経験も踏まえ、より良いものにしていきたいと考えている。また、地元の漁業協同組合とも相談しながら検討を進めたい。

➤ 高山委員

左岸側に30～50cmの巨礫を設置する際には、深みを残して欲しい。

➤ 佐藤委員

魚の生息のためには、水深が深い箇所が点在すると良い。

➤ 清水委員

洗掘による崩壊が懸念される場所には、何らかの保護が必要である。また、露岩が進行すると、河床全体がフラットとなるため、巨礫や砂礫の設置も必要と考える。

➤ 佐藤委員

巨礫等を設置しつつ水深差を確保し、流速変化を生じさせる。それらが、魚・水生生物・底生生物にとって良好な生息環境となる。

➤ 清水委員

巨礫による捨石工や砂礫による被覆時には、設計意図が工事業者へ伝わるように適切に監督してほしい。

➤ 事務局

施工業者に伝えて適切な施工に努めたい。

➤ 堀尾委員

碓氷川は、上流域に位置するため水質が良好である。良好な水質を維持するためには水の流れが必要である。また、床止工や魚道のように段差があることで酸素の供給があるため、水生生物が棲みやすい。このような水質環境を保全するような設計にすべきである。

➤ 佐藤委員

コンクリート工事では、一時的に強アルカリ性の水が発生する恐れがある。強アルカリ性の水は、魚そのものへの直接の影響は少ないと考えられるが、底生生物に影響を与える可能性がある。工事後に魚を放流するタイミング等も漁業協同組合が計画されるはずであるため、工期に関して漁業協同組合に正確に伝えるべきである。

➤ 事務局

そのように対応する。

➤ 堀尾委員

重機が河道に入る際には濁水が発生するため、魚への影響に配慮する必要がある。

➤ 清水委員

新堀地区では、床止め工2基を設置する。そして、捨石工や覆礫では水の流れの強弱を残す。また、工事が魚類等に与える影響等へ配慮する。護岸基礎が露出しないような対策と生物の生息にとって良好となる対策を検討することが必要である。

工事スケジュールはどうなっているか。

➤ 事務局

工事は、令和7年秋以降に下流側床止工から着手予定である。

「碓氷川土砂還元対策」について

事務局より資料4の内容について説明。

以下、審議内容

➤ 清水委員

土砂還元した材料は、どの程度の大きさか。

➤ 事務局

材料は、中木ダムに堆積した30～50cm程の粗い礫とした。霧積ダムや坂本ダムに堆積している粒径は、細かいためにすぐに流下することを懸念し、中木ダムにある礫を置き土した。

➤ 佐藤委員

置き土量はどの程度か。

➤ 事務局

置き土量は1.6万m³程度である。護岸天端の2m程度下まで置き土を行った。

➤ 堀尾委員

置き土した土砂は、すぐに流れていくのか、それともある程度残るのか。

➤ 事務局

細かい材料以外は、ある程度の出水がないと流れていかない。

➤ 堀尾委員

30～50cm程の材料だと、藻類も付きやすく、水性昆虫も存在しやすく、魚にとっても良好である。土砂還元材料の大きさは良いと考える。

➤ 清水委員

上流からの土砂供給が少ないため、継続的に土砂還元することは大事だと思う。ただし、下流側で流路が直角に曲がっているため堆積する恐れもある。河床高を注視しながら土砂還元を続けるべきである。置き土の効果があるのであれば、床止工を作らなくても、置き土を継続的に続けることで河床が回復するのではないか。予算の面からも有効と考える。

➤ 清水委員

山地河川の堆積層は、従来、数m程度で薄いと考えている。群馬県の河川を横並びで見た際、河床低下が著しいところの洗い出しを行った方が良い。

群馬県が河床低下対策を頑張っていることを、積極的にPRした方が良い。様々な方に対して、なぜ工事を行っているのか、治水としても河川環境としても良いということを伝えて欲しい。例えば、釣り人がもう一度来たいと思えるような川を作っていることを情報発信すべきである。発信方法は、看板でもSNSでも良い。

➤ 堀尾委員

県内では、ミズワタクチビルケイソウという外来種が増えている。繁茂するメカニ

ズムは分かっていないが、繁茂することでアユの生育に影響を与える可能性が問題視されている。

➤ 佐藤委員

碓氷川・烏川・神流川は、ミズワタクチビルケイソウが特に深刻である。共通していることは上流にダムがあり、ダム下流の流量、水温、水質が安定的であり、フラッシュがないということである。それらの河川に釣り人が入り、ミズワタクチビルケイソウが付着したソールで他の河川に入り、繁殖が広がっているのではないかと考えられる。ミズワタクチビルケイソウの生態そのものが完全に解明されていないが、今後問題となってくると考える。

➤ 堀尾委員

ミズワタクチビルケイソウには枝がついており、その枝に粘着性があるため、砂礫に着きやすい。対策は難しいが、念頭に入れておいていただきたい。

「今後の予定(案)」について

事務局より資料5の内容について説明。

以下、審議内容

➤ 清水委員

「新堀地区における河床低下対策」、「碓氷川土砂還元対策」の2案について、県が考えている方針を進める。

4 閉会

(以上)

署名 清水義彦